

中野四季の森公園の芝生エリアにおける試験施工結果及び今後の方針について

中野四季の森公園の芝生エリアにおいて令和7年度に実施した芝生生育環境改善に関する試験施工の結果及び今後の方針について以下のとおり報告する。

1 試験施工の概要及び結果

令和6年度に実施した調査結果を基に、令和7年度に芝生エリアの一部で試験施工を実施した。試験施工結果より、別紙1のとおり芝生の生育環境改善には砂層を設けることや、生育環境が悪い日陰部は他の形態に転換することが有効であるという結果を得た。

2 中野四季の森公園周辺の状況等

(1) 歩きたくなるまちづくり及び中野駅周辺整備の進捗

区は、人々が「歩きたい」「過ごしたい」と感じることでできる空間や居場所づくりを推進し、区民等が歩きたくなる魅力あるまちの実現を目指している。また、今後、中野駅の北側では駅からのペDESTリアンデッキが中野セントラルパークに接続し、中野四季の都市のエントランス空間としての展開が想定される。

(2) 芝生が持つ効果

国土交通省が令和2年3月に策定したガイドライン「芝生のチカラを活かしたまちのCORE（コア）のつくり方」においては、芝生は単なる緑化要素ではなく、ウォークアブルなまちのコアとなり得る存在として位置づけられている。

また、このガイドラインの中で、まちなかに芝生・みどりをつくる効果として以下が整理されている。

- ① Sustainable（持続的なまちの形成）
- ② Health（健康改善）
- ③ In touch（芝生に触れることでリラックスした状態に）
- ④ Beauty（美しい空間が地域のシンボル空間に）
- ⑤ Area（芝生をまちの核として周辺も活性化）
- ⑥ Community（地域コミュニティの形成・強化に）
- ⑦ Open（開放的で魅力的な空間の創出で周辺地域も魅力向上）
- ⑧ Relationship（周辺の空間、住民、企業との連携）
- ⑨ Engine（地域経済の推進力に）

3 これからの中野四季の森公園について（詳細は別紙2のとおり）

中野四季の森公園は、防災拠点、区民の憩いの場として平成24年に開園し、交流・賑わいの拠点としても、多くの区民や来園者に利用されているが、開園から10年以上が経過しており、芝生の生育環境を改善したうえで、今後も適切に維持管理していく必要がある。

一方で、歩きたくなるまちづくりの推進や中野駅周辺整備の進捗など、中野四季の森公園を取り巻く環境は変化している。

このため、これまでの中野四季の森公園の「防災拠点」、「憩いの場」、「交流・賑わいの拠点」といった役割を維持しながら、歩きたくなるまちづくりにおける芝生の効果を踏まえ、中野四季の森公園の芝生をまちの核、シンボル空間として芝生エリア等について以下の方針で改良を行い、区民が誇れる公園となるよう魅力向上を図っていく。また、この改良によりシビックプライドの向上、不動産価値の向上、質の高いイベントの誘致といった効果を期待する。

（1）憩いの場の充実

既存の芝生の改良や現状の公園内のゾーニングを見直し、休憩や滞在がしやすい快適な空間を創出する。

- ① 芝生の周囲にウォールベンチやライティングを適切に配置し、日中、夜間問わず、安心して居心地の良い空間の充実を図る。
- ② 使う空間と観る空間を適切に配置し、公園全体の機能分担を明確化することで、利用空間の棲み分けを図り、芝生の適切な維持管理につなげる。
- ③ 常設する柵は景観に配慮したものに更新し、観て憩える空間の充実を図る。

（2）交流・賑わい空間の拡充

中野駅方面からの新たな動線やイベント利用を踏まえ、多様な人々が集い、交流できる空間の充実を図る。

- ① 中野駅からの主要な動線やイベント利用が見込まれる芝生箇所について、舗装等による利用空間への転換を検討する。
- ② 日陰等により芝生の生育が困難な区域について、ウッドデッキ等への転換により、休憩や交流の場として活用を図る。

4 今後の予定

今後、関係機関との確認や調整を行うほか、外部専門家や維持管理の専門業者等に意見を聴取しつつ、歩きたくなるまちづくりに関する実証実験や中野駅周辺まちづくりの動向を踏まえながら、整備内容の具体化を進めていく。

令和8年度	関係機関確認、調整
令和9年度	実施設計
令和10年度以降	工事着手

令和7年度 芝生エリアにおける試験施工の概要及び結果について

1 試験施工の概要

令和6年度に実施した調査結果を基に、改善対策を取り入れた試験植栽区を芝生エリアの一部に設け、芝種、土壌等について複数パターン組み合わせ、試験施工を実施

2 試験施工結果

- ・基盤改良の仕方による生育に大きな差は無い
※ノシバとする場合は150mmより厚い改良砂層が必要
- ・立入り制限の有無による改良材や改良厚さによる硬度の差は無い
- ・砂層150mmのみでも生育の健全性はある
※経年的な硬度上昇のリスクがあるため、維持管理作業としてコアリング（エアレーション）、目土かけ（砂や土まき）など十分な対策が必要
- ・日陰部（南側のケヤキ並木部分）での生育は芳しくない
※裸地化した箇所の芝生化はリスクがある

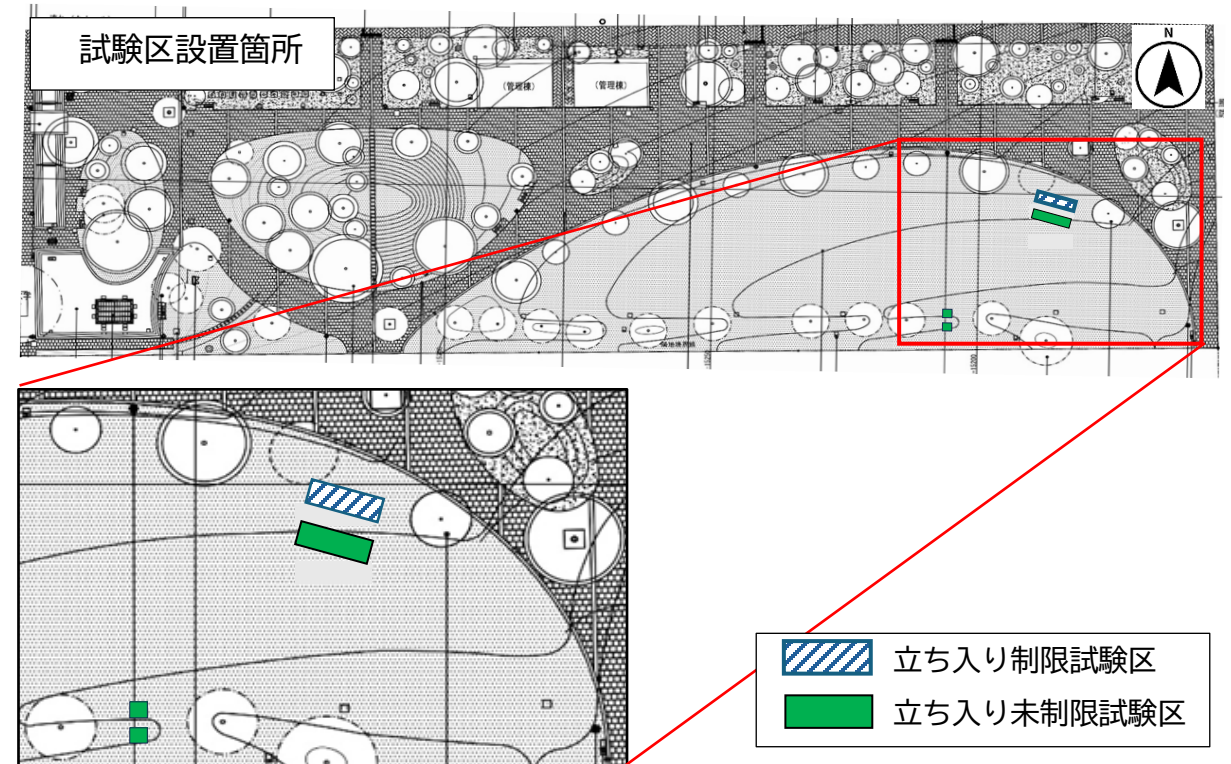
3 試験施工結果を踏まえた対策案

①芝生の改良

- ・芝生の生育環境改善のため、基盤改良を実施
⇒砂層150（～200）mmを設ける
- ・日陰部等は芝生以外の形態に転換し、空間を有効活用する
⇒現状の芝生部分をウッドデッキや舗装といった別の形態に変更する

②管理上の課題と対策案

- ・芝生の良好な管理に必要な養生頻度や養生期間と、イベントや日常利用の両立
⇒（対策案）芝生管理に必要な養生頻度・期間を確保する方策（夏芝のみの運用）や、現状閉鎖している芝生部の開放等の運用面の変更といった対策



平面図		2.0m	2.0m	2.0m	2.0m
1.0m	A-1 ティフトン芝（張芝） +ライグラス(播種)	B-1 ノシバ（張芝） +ケンタッキーブルーグラス播種	C-1 ティフトン芝（張芝） +ライグラス(播種)	2.0m	
	A-2 ティフトン芝（ストロン） +ライグラス(播種)	B-2 ノシバ（張芝） +ライグラス播種	C-2 ノシバ（張芝） +ケンタッキーブルーグラス播種		

断面図		A-1	B-1	C-1
150		砂+完熟たい肥30%	砂+完熟たい肥30%	砂+完熟たい肥30%
350		徐礫+黒曜石バーライト20%	徐礫+黒曜石バーライト20%	無改良
		A-2	B-2	C-2
150		砂+ヤシガラ改良材30%	砂+ヤシガラ改良材30%	砂+完熟たい肥30%
350		徐礫+黒曜石バーライト20%	徐礫+黒曜石バーライト20%	無改良

これからの中野四季の森公園について

1 現在の芝生エリア等の管理状況

現状、芝生エリアの芝生地は多目的広場以外は常時閉鎖し、多目的広場が養生中の場合のみ一部開放して管理している。



2 これからの中野四季の森公園

これまでの中野四季の森公園の「防災拠点」、「憩いの場」、「交流・賑わいの拠点」といった役割を維持しながら、歩きたくなるまちづくりにおける芝生の効果を踏まえ、中野四季の森公園の芝生をまちの核、シンボル空間として芝生エリア等について以下の方針で改良を行い、区民が誇れる公園となるよう魅力向上を図っていく。

(1) 憩いの場の充実

既存の芝生の改良や現状の公園内のゾーニングを見直し、休憩や滞在がしやすい快適な空間を創出する。

- ① 芝生の周囲にウォールベンチやライティングを適切に配置し、日中、夜間問わず、安心して居心地の良い空間の充実を図る。
- ② 使う空間と観る空間を適切に配置し、公園全体の機能分担を明確化することで、利用空間の棲み分けを図り、芝生の適切な維持管理につなげる。
- ③ 常設する柵は景観に配慮したものに更新し、観て憩える空間の充実を図る。

(2) 交流・賑わい空間の拡充

中野駅方面からの新たな動線やイベント利用を踏まえ、多様な人々が集い、交流できる空間の充実を図る。

- ① 中野駅からの主要な動線やイベント利用が見込まれる芝生箇所について、舗装等による利用空間への転換を検討する。
- ② 日陰等により芝生の生育が困難な区域について、ウッドデッキ等への転換により、休憩や交流の場として活用を図る。

防災拠点

憩いの場

交流・賑わいの拠点

+



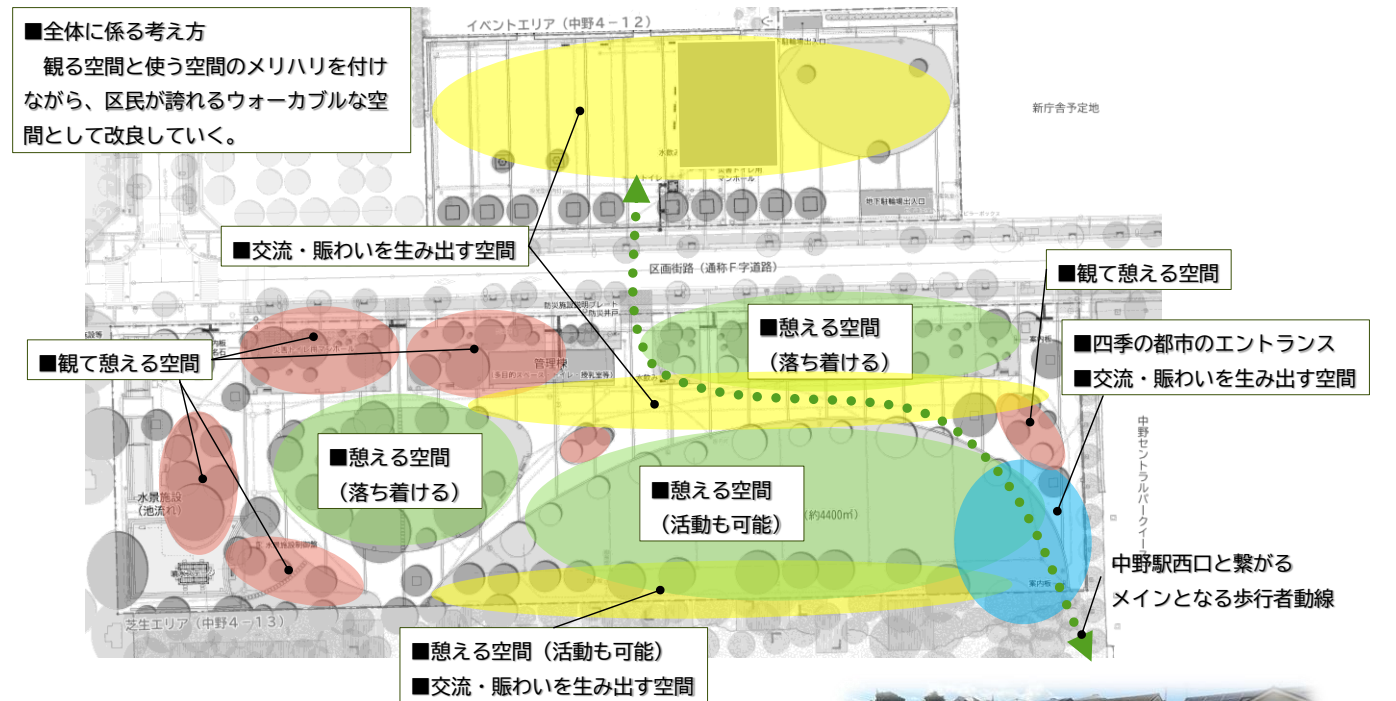
(引用元) 令和2年3月 国土交通省
「芝生のチカラを活かしたまちのCORE (コア) の作り方 ～芝生を活用したまちなか空間の創出ガイドライン～」

区民が誇れる公園に改良し、新たな価値の創出やこれまでの魅力を向上させ、四季の森公園の芝生をまちの核、シンボル空間としてブランディング

●期待する効果
シビックプライドの向上
不動産価値の向上
質の高いイベントの誘致



3 全体の改良方針イメージ (ゾーニング案)



ウォールベンチ設置イメージ
(写真: 上五こもれび公園)